

新 福 盛

NO 16

27.12.15

目 次



〈ルポルターデュ〉 都庁に押しかけた附添帯.....	大村良子.....	(4)
野村病院訪問記.....	児島美都子.....	(6)
め し.....	こぼとけ.....	(8)
随 想.....	秋山 寛.....	(9)
結核随想.....	持田 穰二.....	(10)
生保運動記録.....	日思東京.....	(7)
生 活 相 談		
映画評「肉体の悪魔」を観て.....	K. K生.....	(13)
検 疫 成 績 表.....		(12)
売店資金応募者芳名.....		(3)
親 和 会 日 誌.....		(3)
冬 の 献 立.....		(2)

12 月号

東京都中野区新井町549番地

織本外科病院内

親 和 会 合 同 機 関 紙

外套の詩

北村 馬

あまろしき冬がやつて来ない間に
たとえどのような外套でもいいから
つくらねばならぬといふ
よれよれになつた雨外套ひとつで
今年もまた寒さにかかるえながら
過ぎさねばならぬと覚悟をきめていたが
あなたが外套を着ないならば
わたしも外套を着ないのだといふ
道子の駄々に出喰しては
會しい私ほどでもない
一しよにつれだつて歩くにしても
私が寒さにふるをこしては
道子はすこしもあたたまなうだろ
そんな心配でいてくれるから
だんだん私の身のまわりがきれいになる
どれほどおそろしい冬の風も
どれほどほげしり雨あられも
外套よりもあたたかい
道子の思いやりがあるからには
私だけして負ければいい

冬の献立

持ち味の美味しい
貝を主にした鍋料理

◇ 蛤 鍋

材料 蛤中位のむき身日夕、葱五本、
焼豆腐三丁、味噌、醤油、砂糖、煮出汁、
酒、味醂

作り方 (1) 蛤はサルに入れて塩

水の中まで小り洗いし、葱は斜切に、焼豆腐は食べよい大きさに適宜に切り、

(2) 少し深めの鍋に葱と豆腐を下敷きにし、蛤を並べて入れ、煮出汁をひたひたに加え、

醤油で淡味をつけ、味醂、砂糖を少し加えて、酒、味醂、砂糖を少し加えて、

(3) これを火にかけて、味噌が溶けて全体に火が通つたところを食べ、こして頂きます。

はじめ、あとは火をきつと弱くします。

煮方のこつ——蛤は煮すぎると硬くなり、汁も煮詰つて美味しなくなりますから、冷めないうちに火を止めて、頂きます。

◇ 浅刺の味噌鍋

材料 浅刺のむき身二合、葱五本、こ
んにやく一握、味噌、酒、煮出汁、醤油、
酒、味醂

作り方 (1) 浅刺はサルに入れて塩

水の中まで小り洗いして、木気よく葱は斜切にし、こんにやくは食べよい大きさに切つて茹でこぼします。

(2) 丁ぎ焼鍋のまわりに味噌をぬり、酒大匙二、三杯と煮出汁を二合ほど加えて、火にか

け、煮立つかましたら葱とこんにやくと浅刺を適量に入れ、煮えろくばから頂きます。

煮方のこつ——むき身はちよつとでも煮すぎると美味しくありませんから、汁が少し入れば、煮汁が少なくなりましたら煮出汁を少し、味醂で補います。



赤店資本金募者芳名

十一月十七日
十一月十八日

氏名	口数	金額	備考
國島 誠三	三六〇	會員	
波谷 修一	二〇〇		
五島 重一	二〇〇		
兼賀七三男	二〇〇		
芦沢 誼二	二〇〇		
宮下 光義	二〇〇		
井原 正彦	二〇〇		
田村多津男	二〇〇		
宮次 憲明	二〇〇		
持田 稔二	二〇〇		
野村 武雄	三六〇		
加藤 龜吉	二〇〇		
廣口 義光	二〇〇		
赤坂 文子	二〇〇		
小野田清代	二四〇		
葛葉 饒雄	二〇〇		
細谷 弘子	三六〇		
朝海富次郎	二四〇		
板谷 忠雄	二〇〇		
大村 良子	二四〇		
堀田 武夫	二〇〇		
氏名 <th>口数</th> <th>金額</th> <th>備考</th>	口数	金額	備考
岩島美都子	五〇〇	會員	
小林 強五	二〇〇		
久納 武文	五〇〇		
塚沼 ユキ	三六〇	非會員	
榎本やす多	二〇〇		
樋口 直一	二〇〇		
増山 芳江	二〇〇		
相沢 芳子	二〇〇		
杉原 七郎	二〇〇		
小林繁三郎	五〇〇		
松岡 正良	二〇〇		
宮田 朝夫	二〇〇		
市川 良治	二〇〇	會員	
市川 満雄	二〇〇	非會員	
内山 貞夫	二〇〇		
入江三之助	二〇〇		
棚橋 慎蔵	二〇〇		
萩原 一男	二〇〇		
青木 恭一	二〇〇		
白石 光男	二〇〇		
國島 充之	二〇〇		

氏名	口数	金額	備考
西郷 憲二	五〇〇	非會員	
渡辺 和子	二〇〇		
岡田 昭治	二四〇		
宮下 光義	二四〇		
松宮孝二郎	二〇〇	會員	
久納十枝子	五〇〇		
永井 大作	三六〇	會員	
関口 富子	二四〇		
石原貴美子	五〇〇		
高橋 一敏	三六〇		
森瀬 昭子	五〇〇		
合計	一五六〇	三二二〇円	

◇皆様の御協力を得て、目標額の六千円の半分を越えました。アフターケア発展のために、もう一段の御助力を願います。

親和会 日誌

○新入会員氏名住所
十一月五日、十一月八日

- 伊藤 隆久
- 三鷹市
- 市川 良治

長田 耕次
板橋区
常盤台病院

嘉山 信夫
杉並区

唐不 昭一
新宿区

加藤 英雄
新宿区

小林 住夫
台東区

津田 和子
豊島区

林 茂樹
豊島区

藤 不 昭
中野区

・会員総計 一八六名 (新会員十名共)

◇「新緑」と同封にて、区別会員名簿をお送りします。新会員

にお書きの入れ下さい。御住所、入院先の変更なされた方は何卒直ぐに御通知下さいませ。

「いや、指導合議のことは私一人の責任で約束することほどもない、再協議は出します。」

古の同約一時固、私達は白々とした表情を浮べた

「た表情を浮べた」

「その中を通つて」

「そうすると柳下」

「に出る、階段を」

「中途まで降りた」

「時、委員長が会議から帰つて来た」

「今委員長が帰つて来た」

「もつたんだでしよう」

「と係官、向髪をして」

「はい、これからです、さあ、」

「みんな行きませう」と委員長も、一同を連れ去つてとの部屋に引き返す。

「騎が充けて小さな今委員長は、」

「肥つて堂々とした石川氏よりもつと種柄である、一体彼等は私達の」

「収めた税金で食つてゐるのではないんたろうか？」

「君達はそんなに騒がなくてもいい、看護分はいくらでも出すよ」

「お金もどんとん病院に払う、君達」

「はそれを受けとればいいので、何もいふことはないじゃないか、そのかわり病院には全責任を押しつけた、検査する、不正があった時、病院から取り戻させ、罰金」

「を課する、君達には何一つ悪いことはいりやないが、組合もいりやないじゃないか、それでいい」

「たうろつ」

「さよふと待つて下さい、病院側もそんなに負担に感ぜられるかどうか、それに病院側が全責任を負うことになるし、そういうことの為めに組合を作つたんだのに……、そんなことを実施しなされて下さい、」

「委員長や耐添藩が是命に云ひかけるの正取切つて、会議だからと数人の若い事務官に守られ出て今委員長は早車に立ち去つて行つた、」

「健康の一月は問題とならず、なせ生保だけが切られるのか、なぜ耐添藩が予算削減のシフ寄せの重頭に乗けられるのか、一番弱いところへ、何時も犠牲は強要され」

てゆく、然し生活の最監獄は守らなければならぬ、そこにこそ人種的最も基本的な一線がある、耐添制度のもつ欠点と矛盾は克服されなければならぬが、政治的の意味の圧迫に対しては徹底的に抵抗しなければならぬ

医療券の一部負担

二千円以下は免除 (北海道オニ)

北海道オニ事務所では人前科の払込み納付約百名におよび、滞納額は二百万円にもなつてゐたが、この人たちは人前科滞納者懇談会をつくつて困つてゐる実情を訴へ所科と警署適用についで交渉を進めてきた。その結果次のような二種の成果をかくとした。

- (1) 医療券の二十円以下の一部負担者に対しては本人の事情を調査の上全額免除する。
- (2) 医療券の二十円以上の一部負担者には家庭の事情調査の上百分の十、または百分の二十の減免とする。

(3) 人前科を及ぼすことの結果ない患者に対しては事情調査のうえ減免を適用する。

都庁を出て厚生省に行く鳥、日比谷の交々是在二田となつて渡つた日比谷公園に入ると、ベンチには暴休の人々が一杯になつて談笑し、花壇にはサルスビヤの花が朱い、空気が暖まつてましく暑いほどになつて来た。

(日経情報一三九号より)

野村病院訪問記



(医、社会事業係) 兎 島 美 都 子

夜とも月日は温泉マークの赤いネオンの灯が、空の星と光をまきつけてまたたく。一三池袋繁華街の裏にあり、その温泉旅館と屋根をつらわた木造二階屋赤松亭会野村病院と林する産婦人科兼呼吸器科兼内科・兼外科病院。一三に住む須本短期大学卒業生は、男六人、女三人と總勢九人で温泉病院につぐ大古帯である。バアセンターとして入院患者の三分の一にあたるから「須本の分院かよう元気があります」と一三に入つてくる卒業生たちはいう。

一番の先輩は今年五月に区域切除を終えた吉田清さん。濃厚な性格があつて才があつた人が、これですっかり須本卒業生の信用を上げた。後輩八人は無試験合格と云つたところ、あとにつづく

面々口高松、林氏村、西尾幸恵、南沢 繁雅、寺内三代司、足立、ナ、野田雅代、石沢止良の諸氏、いづれもそうそうたるつわものでもである。中でも須本不在院中はうるさく望んでるにせれた林成村さん。これは林ドクターの別名で、リダ「格として諸事万端の古話をやいて、手術前夜固の工、再分石になりつて刈つたいがくり頭のもも七分と下り生えさうしても三分ほどものびれば、天晴れドクターの風格もそなわろうというもの。一このドクターには外患者もあつて同期生で自宅に養中の再内氏などから「熱が七度正ししたけどどうしたら良いだらう」とか「四葉がでたけど心配ないだらうか」とと電話して向合せがあるという。夜ともなる上ホームシック

なつた上、い評判の西尾あ村、まよがり大人になつてナイトキヤツクなどが小るようになった高松、ちやんぱつ、おかにロマンズなうちあけあつたり、共同炊事止やつたりして「愛を愛を愛としているらしい。

だれでも須本から来た当座は、強烈なホームシックにかかるといふが、いちばん啼りたあつて、皆正手ニテラせたのは、いちばん年長者の寺内さんだつたという。これは内婚誌である。

原稿募集

小説、看護日記、詩、短歌、俳句、川柳、笑話、生活記録等、何でも、結請です。原稿は四百字結原稿用紙でお願い致します。編集部にも申出下されば、原稿用紙はお送りします。

締切は毎月二十八日です。(編集部)

生保運動記

Hさんが医扶を受けるまで

Hさんには公務員だが三年間病んだ為健康がまじれてしまった。家は自分の家作、母の他妹二人若二人の世帯で妹二人は税務所と銀行に勤めている事とHに対して役所より手当が支給されて居るためにどんたに帳入証明書を書く書いてもらつても四百円の負担が、かかつてゐる事になつた。

負担金がなかり時でせよ、娘二人の通勤費すら買えないと云う、毎月四千四百円はなければならぬ、Hさんが、福祉事務所は更に向致オライとの理由で、同質生活を指示し、母親はまだ若いからとの理由で内職するよう云われたが、実際は内職もして居たので収入として少なくて居出さざるを得ない状態であつた。

以上がH世帯の困窮状態であつた。

たが五葉つきたH家には、国民の税金を無視して何千億というお金を使つて再建衛生すすめて居る自由党政府の云う通りになつたら、生活は破壊されてしまふと、生活を守るためにH家全体で斗争ことをせよ、妹二人の移動を認めて居るの姉のところに移し、家出したことにして娘二人の収入を一家より抹消し、隣近所にも誤を話し、生活保工法の要態を伝へて諒解してもらひ、福祉事務所よりの調査に備へた後、再び返り券交付に付て福祉事務所と交渉に入つた。

これに対して福祉事務所では差傷申請だとの臆測から母親を威嚇したが、母親は動じなかつた為、娘に対する態度を云つた後、福祉事務所の係員は直接娘達の勧め先に行つたが、娘達は遂に「私はせ

の方に会う必要はない」と道すがらしてしまつた。而しその後、福祉事務所係員が母親の不在中H家を訪れ、小さい弟に「姉さんはどうして居るのか」と問はれて、その結果、実際にはH家に娘二人が居ることを判つてしまつた。

二れに対して福祉事務所は、Hの母親を呼んで叱りつけたが、「家を出した上りつても日曜日は娘が母親を訪問できたから」といつて何が悪いのです。貴方は娘が全く奇りつかなければ、貴方は娘が助にでもなつた方がよいと思つたので「ホ」と交駁して、娘家出の件を押し通してしまつた。

その翌日には隣り近所の奥さん達それぞれ、小さい弟を背中におぶつてまでして、福祉事務所に行き「気の毒なH家をいじめなかりで助けて欲しい」と訴合つてもらつた。

そして此の結果、僅か月四百円の負担で、Hの医師券が交付され

解した
註、このHは此の柱永り、養生治生全うされて、再控運脱し、復職して居る。
(日思東京オ一〇〇号より)

冬の詩

伊 藤 整

でもね やがて夜も映くし
たんぽぽも咲きますよ、
あの雲が消えてしまふと
一面に黄色になつて
五てんと様と雲雀とが
夢を兎合つて居るような日が
来ますよ、
まあ、それまでお待ちなさい
せれば夢のように来ますよ、
——『雪明りの路より』——

めし

昭和十五年五月 藤原



二二比、まゝともし、

私はどうもこまがさされてゐるよ
うな気がしてゐらない。唯、いもの
のうらみは恐ろしいといふが、食
べるこゝが来し及の病人にとつて
外米の澤山までつたゆゑに毎日嘆
わなければならぬ事は愉快なこ
とでは無い。

そのうゑに外米といふものは、
日本人にとつて口にあつただけ
でなく、日本人の考え方の中に
いつの間にか針正もつて棒と思つ
ような錯覚をうゑつけてゐる。こ
の錯覚が政府の食糧政策や農業政
策の無能をうましくこまがすのにと
つても役立つ、いふような気がして
ゐらないのである。

事実をあげてみよう。

食糧を正統的に米を以て食すこ
ぶえ、するといふことを述べた。

いまでも、輸入が少くして食糧の多
い勤労者の主婦にとつては米より
もまた量を満たす方をとりたいた
らう。主食の足りなはしさに、何
ともし、でも胃の腑の充足感をも
つたやうとするのは当然である。し
かり、政府や政府の役をうゑる
る栄養学者、料理専門家、食糧向
類解説者までが、外米は同じ目方
でも炊いて量が少ないので得たと
いひつぱり、それをいふのは
良くないことだと思ふ。

外米は二口に落ちる南方諸國
の米は、誰でも知つてゐるやうに
日本米よりも水分が少ない。たゞら
吸水度が高く、水を多く和えると
炊きあがります。

それが、小なれた米だけ栄養が

米は二口に落ちる南方諸國の米は、誰でも知つてゐるやうに日本米よりも水分が少ない。たゞら吸水度が高く、水を多く和えると炊きあがります。

食糧を正統的に米を以て食すこぶえ、するといふことを述べた。いまでも、輸入が少くして食糧の多い勤労者の主婦にとつては米よりもまた量を満たす方をとりたいたいらう。主食の足りなはしさに、何ともし、でも胃の腑の充足感をもつたやうとするのは当然である。しかり、政府や政府の役をうゑるる栄養学者、料理専門家、食糧向類解説者までが、外米は同じ目方でも炊いて量が少ないので得たといひつぱり、それをいふのは良くないことだと思ふ。

外米は二口に落ちる南方諸國の米は、誰でも知つてゐるやうに日本米よりも水分が少ない。たゞら吸水度が高く、水を多く和えると炊きあがります。

それが、小なれた米だけ栄養が

食糧を正統的に米を以て食すこぶえ、するといふことを述べた。いまでも、輸入が少くして食糧の多い勤労者の主婦にとつては米よりもまた量を満たす方をとりたいたいらう。主食の足りなはしさに、何ともし、でも胃の腑の充足感をもつたやうとするのは当然である。しかり、政府や政府の役をうゑるる栄養学者、料理専門家、食糧向類解説者までが、外米は同じ目方でも炊いて量が少ないので得たといひつぱり、それをいふのは良くないことだと思ふ。

食糧を正統的に米を以て食すこぶえ、するといふことを述べた。いまでも、輸入が少くして食糧の多い勤労者の主婦にとつては米よりもまた量を満たす方をとりたいたいらう。主食の足りなはしさに、何ともし、でも胃の腑の充足感をもつたやうとするのは当然である。しかり、政府や政府の役をうゑるる栄養学者、料理専門家、食糧向類解説者までが、外米は同じ目方でも炊いて量が少ないので得たといひつぱり、それをいふのは良くないことだと思ふ。

食糧を正統的に米を以て食すこぶえ、するといふことを述べた。いまでも、輸入が少くして食糧の多い勤労者の主婦にとつては米よりもまた量を満たす方をとりたいたいらう。主食の足りなはしさに、何ともし、でも胃の腑の充足感をもつたやうとするのは当然である。しかり、政府や政府の役をうゑるる栄養学者、料理専門家、食糧向類解説者までが、外米は同じ目方でも炊いて量が少ないので得たといひつぱり、それをいふのは良くないことだと思ふ。

それが、小なれた米だけ栄養が



輸出でよい、だ
ら南方米は完全白
米で日本に

従つて、白米が少い。

白米不足の原因の大半が外米にある。これは史上の事実が証明してゐる。昭和十五年の夏内地の食糧事情が悪く



なつて外米を輸入した。この時期都市では外米の混入率が五の五から七〇%にまでなつた。そしてこの年には白米不足の症が激増した事実がある。太平洋戦争の最中には外米を手に入れたくても輸送ができてゐなかつたので、もつぱら内地米の七分ツキに頼つた。そして白米不足の症はへつた。最近では都市などでは外米の混入率が大変高い。政府の御用が、いくらか國民は戦時の欠乏時代に忘れて白米をたぐたぐりせられたくなつたから白米不足するのだ」といつても、その政府が輸入する外米が全くの白米でくるのだから一體責任はどこにあるのかと(い)ふことになる。しかも外米の方は南支那市の精米

をぶつたふりでもしなれば、どうしようもないのである。輸入食糧依存の食糧政策の結果は、このやうなところなのである。それに本当はウイタミンBは米から取ればならぬとましまさなければいけない。もし國民の實収入が多く、副食に充分の費用をさけるならばBは副食によつて充分必要量をとりこゝろで済ませ、國民の實収入を低くして下りて、商品不安をつくり、それと輸出して、それが至て外国の米や麦や豆やとうもろこし政策では、少くともウイタミンBは、いまでも不足するたう。

この考へてみると、最近話聽にのぼつてゐるビタミン強化米とが強化パンなども本来は結構な話なのだ。その政策的用意図は、どうも、そのことを一応疑つてみた方が良いようだ。つまり白米不足の増加も実は低米価政策が原因の一つのあらわれである。それと強化米がどういふところか、どうもこれは、たゞ、いふに、いふべきである。

随想

(慈本病院医師)

秋 山 寛

我々は共に生きてゐるのだ。お互にお互に利益互あたえあつて最も調和した社会、お互がその分を得てこそ最も合理的なハーモニーが成立するのだ。誰かをけ落さなくてはは存続し得ない様な社会があつたとしたら、おそろくその一人をけ落したために社会はその滅亡を一步早めるだろう。我々の一人一人が我々の社会を調和する一つの細胞である限りその一ケケの細胞の生命は社会全体の生命なのだ。心臓と中枢神経のみで人間は生活し得るものではない。どんな未梢器官の疾患もその生命を減し得るものである。例えば我々の病院と、いふこの様な小さな社会の存続に關しても一人の従業員、の生活は病院の生命を構成する一つの細胞の生活であると思ふ。又、やつあるべきであつて従業員は私生活等は病院全体の生長の爲には

あつて問題にならぬと思ふ。ならばそのやうな考へ方は必ずや内部的な齟齬の芽胞であると思ふ。又そのやうな一つのギセイを内部的な方向に、たとえは従業員の給与の上にも、又は外部的に、例えば治療の面に、及びさなければ成立し得ないものであるならば如何に社会状態の不安定なる現在であると言つてもその存続に一つの不合理な感ぜざるわけには行かない。合理的な病院といふものは、かかる不合理の介在するものではないのだ。如何なる未梢の仕事にたづさわるものも、各々その分を得てこそ初めて全生を打ちこんでその仕事に従事し、その細胞としての機能に最大に發揮出来るものであると思ふ。



結核隨想

二六年九月既形

持田 穰 二



私は先月も
去々月も鏡
けて微重函
が出くしま
つた。結核

種レカレである。ほんの僅がな
面だが出た時に汗ばみ気がした。
と、そのが区域切除しなげればなら
ないし、尚更気がのりいつて
しました。私が肺病手術を受けた
のは丁度一年来ヶ月も前のこと
で、今月から歩行療法に入る予定
になつてゐたのである。
もし、歩行に入つたとしたら、
彼は社会の一員に、或いは半人分
かも知れないが、復帰出来るのも
面近いことだろうと思つて、私は
この日より来るのを一日千秋の思い
で待つ。安静は十分し、歩行がない
或も、自宅を養者としてばかりなり

患れた生活をして来た。私は、手巻
にだけ専心して或程度守つて来た、
しかるに又手術とのことである。
胸が落胆するの当然の事である。
う、私は今迄着して来た月日も惜
しまれてならないが、それ以上に
気管枝鏡検査、リンゲル、又は術
後の疼痛等、今は喉を通さなければ
或程度は行くは来ているが、やは
り思ひ出せば、身のモノよだと思
ひがする。之等のモノが、又もう
一度味わわなければならぬのだ
と思つて、誠に懺悔の念にたえず
思ひ出し、手術を受けなければ
直らないものであるとしたら、眞
悟の睡を締めて受ける必要がある
のであらう。考えよ、よに上れば苦
しみは一時のものである。我慢出
まなむこともない。私は何しろ早
く丈夫な身体になりたたいものだ

全職してゐる。
と云つて、私は、この思ひ出し、病
氣にかかつた初めといへば、戦争
の最中、勤労動員中であつた。そ
の當時は、今の様に結核に対して
の知識が普及してゐらず、私共も
全然それに關しては氣をうけなかつた。
水。国民精神勤動員、カスロ
ーガンのもとに休まなしに切かき
せられ、多少の休息をもゆるされ
ず、又食糧も十分でなく、その上
空襲に襲われるで、安眠をなさ
ざることも不可能な状態であつた。
為、凡そが養病とは考へにも及
ばなかつた。之等のことは今にし
て思へば一連の悪夢にすぎないで
あらうが、全く二度と繰返したく
ない事共である。私の病は、この為
に次第に丸進して行つたこと云える
であらう。後悔は先に立たずと云
うが、若し此の時に正しく処置を
行つていたら、こんなこと
にはならなかつたであらうと悔ま
れてならない。私は、ここに於て切
実に、戦争反対を唱ふる次第であ

その後私は、中学から大学へと
進み、終戦後三年目に初め、大学
附屬の診療所マレントンに就職し
呼び出されて注意を受けた。また
その時に只大した事ではなかつた
のであるが、私は結核恐怖症とま
もいふものにしつゝが、安静に
するどころが、逆に結核に對して
は大膽になり、無理に無理を重ね
て悪化の道を辿つて行つた。私が
今当時の行状を記すとしたら、聞
く者は唖然とするに違ひない。や
が、年月も過ぎて、昨年の夏迄に手
術のやせがきに至り、覚悟を定め
て織本に入院し、今日に至つた。
その間は、長かつたが重大なこ
とにもならず、手術が出来たとい
うのも、不幸中の幸であつたがも
知れない。織本は私が初めて、病
院生活で随分と戸惑つてしまつた
が、他処の事は分らないまでも、
非常に感じの悪い親切な病院長と
いふ印象をうけた。私は今、ここ
に、感謝の氣持を表したいと思

前後共一年又はそれ以上の日を費して結核を直して行くのであるが、結核とは癒ればそれでもうよいというものではないだろう。再発をいふことを考慮に入れる必要があるのであろうが、それ以上は回復後の



就職或いは結婚という困難で苦悩しなげればならぬ。私は或る目的

と理想をいだいて大学生生活を送つて来たのであるが、しかし無残にもここに來て挫折してしまつた。それは、やはり大なり小なり健康であることが前提に置かれて考へてあつたからである。私はこの長年の病を得、初めて、健康な人間の唯一の財産である、と悟つた。だが、すでに過ぎに失つていた。私は今後、結核回復者としての就職口を探し求めて行かなければならぬのであるが、世間は私達に

對して等外な程に冷酷であり、会社、官庁或は教師等々々々々の内戸を固く閉ざして閉め出しを行つて、一人として採用せず、又さか上今迄動つて来た人々までも職を解雇され、十分な食糧をこつか一日の食事にも事欠く始末といふ人も多く出ている。店を待つにも資金が乏しく、職を探しに口がない。この様な状態では私達の前途は誠に暗い。唯たるものがあるのである。すなはち、傷病の男ではなれば、皆に優待の男が肩身の狭い思いをして暮して行かなければならぬといはばどうした事だろう。

私はこれらの解決策として、即ち胸に求めて行きたは（思ふ）、即ち社会保険制度と社会保護制度との確立である。これらは吾界でも屈指の結核王国となつて居る日本では、社会政策の一大内題としてとり上げ是正して行かなければならぬのである。破防法こそ、身体を破壊して行く結核に對して適用してもらいたいものだ。

生活相談



に考へる。その他私は、経営者側の理解ある態度をも欲してやまない次第だ。

結核について、ただ單に異性の理解を待つより他にないと思へ

問、私は近く健康保険が満了します。この障害年金を請求しようと思つたのですが、年金の一級、二級、手当金はどのような基準で決めらるのでしょうか、よろしく

答、厚生年金の障害年金（年金）は病状の程度を細かく規定した表があつてそれによつて決定されるので、然しこの表で具体的に決められて居るのはほとんど外形的な疾患で、内科的疾患については夫々「前各号に掲ぐるモノ」外精神または身体の機能に高度の障害を認し労働能力を喪失したるもの（年金一級）、「……著るしき障害

る。最後に私はこの身に体験した結核という思わぬし病氣に、この吾から駆逐するよう念願すること共に、人人にも訴へ、結核撲滅を迫るべく筆を置く事にする。

「精神身体又は神経系統に障害を認し労働能力に制限を有するもの（年金一級）」という項目があるだけで、すなはち肺結核の場合はこの病状をこの項目に屬してはめて判断されるわけですが、具体的には厚生省厚生年金課は次のようにいつてはります。

「一、一番重要視されるのはレントゲン写真で病巣の広さ位置が考慮される。年金一級は重症結核、常時臥床を要し自用を弁じない程度、年金二級は結核性病変が残り、医学的社会的にも高度の労働制限を要する者で数年以上療養の継続を必要とする。ただし予後は必ずしも不良でなく産卵療法その他で社会復帰が可能と認められる者です。年金は病状の停止、軽快の見込が著明で二年乃至三年以内に普通の勤務が可能となるが現状では一、二級認定された病状で労働制限を可なり制限を受ける者か、試みる。

検痰成績表

(十一月分)



培養陽性者氏名

(W) 眞 K (口) ニー

保倉 成 十月十四日 四W/K

鈴木輝夫 十月十四日 四W/K

小野塚太郎 十月十四日 四W/K

川口五郎 十月十四日 四W/K

川島静子 十月十四日 四W/K

直藤 忠 十月十四日 四W/K

渋谷 修 十月十四日 四W/K

山口祥久 十月十四日 四W/K

浅沼富太郎 十月十四日 四W/K

津田和子 十月十四日 四W/K

小野塚勉夫 十月十四日 四W/K

十不良 十月十四日 四W/K

岩井正吉 十月十四日 四W/K

飯高孝徳 十月十四日 四W/K

笠原孝子 十月十四日 四W/K

戸沢謙二 十月十四日 四W/K

山本久江 十月十四日 四W/K

小野田清代 十月十五 六W/K

津田和子 十月十五 六W/K

田中 実 十月十五 六W/K

森三樹子 十月十五 五W/K

浅沼富太郎 十月十四 四W/K

波多野 一 十月十四 四W/K

小高 佐 十月十四 四W/K

樋口 一 十月十四 四W/K

長沢正義 十月十四 四W/K

山内広輝 十月十四 四W/K

長井 弘 十月十四 四W/K

培養陰性者氏名

九月八日(十一月八日)

小野塚宗太郎、金上姫、川島静子、関口義光、都司

九月十七日(十一月十七日)

岡島 堀内、林茂樹、近藤

昌次、鈴木敏夫、佐藤正三

新井厚治、松室徹夫、増田

子工子、山瀬子工子、鈴木

輝男、高田、永井、録田、

土屋健人、石沢正義、松尾

政子、近田、伊藤隆久、

川島静子、

九月二十日(十一月二十日)

塚田佐佐木、日暮義太郎、

植竹五郎、安藤定義、佐藤盛

男、田中重康、藤本昭、林礼

二、中俣乃布川、高橋善一郎

藤井茂、近藤実、黒田隆重、

前沢、笠原孝子、金沢隆雄、

野村武雄、小口均久、杉野香

夫、斎藤小じえ、宮下義光、

日暮剛、馬場夕子、吉田静

子、岩崎弥重、高沢賢明、

吉田淳一、尾関英二、安森、

赤坂、小美野(八)、辻じち

八、古吉之助、近田、加藤忠吉

鎌田、小林強、伊藤辰夫、

安藤君子、中野悦男、浅沼富

次郎、福井正久治、弥吉、

鈴木利夫、長沢正義、松室

九月二十九日(十一月二十九日)

松田登美、雨沢敏雄、戸瀬子

工子、浅子ハツ子、伊藤隆久、

堀田武男、伊藤静子、大川金

一、関口義光、白井利津子、

増田千工子、堀内三郎、山内

宏雄、吉田宣義、村上昭三、

岩田八重子、佐藤孝男、金

主姫、松本千代治、坂本安

子、山島豊久、鈴木伸男、

加藤猛史、津田和子、加藤

美雄、波多野、岩淵、木崎

伊藤康子、古田たま、吉沢

千ノ、藤原雄一、

十月二日(十二月二日)

録田、岩崎、鈴木利夫、

芦沢謙二、外谷ひろみ、

郡司良規、足立、藤原正彦

藤本昭、

十月六日(十二月六日)

松室徹夫、森静子、兼子、

関助一、木村次男、宮沢憲

明、尾田彩吉、浅沼富太郎

田中重康、大園、島田尋雄

野村武雄、林茂樹、近田吉

三、寺門三代治、奇木登子

○ 雑菌者氏名

松室徹夫 十月二日

赤坂女子 十月十八日

山口正中 十月十八日

小倉幸吉 十月三十日

(註) 雑菌とは、結核菌以

外の菌が生えたことと、これ
は無効です。から至急もう一度
石持ち下さい。但しこの場合
は無料です。
なお、検痰を石持ちになら
ない方は、病院に消毒するの
容易が備えつけてあります。か
ら一ヶ月に一度は必ずお持ち
下さい。

病院月報

(十一月の活動状況)

胸郭成形術 十八名

肺葉摘出術 一名

肺区域切除術 三名

虫垂切除術 五名

その他手術 三名

入院待病患者数 四十七名





「肉体の悪魔」を觀て

氣胸患者 K・K

医者「ニアニストの御夫婦、それに某大学の先生と、亂れも三千すぎた男盛りの人に連れられて、ある夜日比谷映画劇場に入った。入館の動機はその大学の先生の雅賞による。とにかく薄く濃厚なラヴ・シーンだから、是非觀た方が良し。自分ももう一度觀てもよいとのことで——」こう云々は尊敬すべき大学の先生ともあろう人がと非難の材料になるかも知れないが、さてそれは別談である。

柔にた本わす、そついで映画を見たが、しかし決して煽情的なものではない。フランス映画特有のあの含蓄のあるセリフは觀る人をして、注意正しつがせるに充分である。戦時の異常な舞團氣に生れた異常な未成年者と年上の人妻の恋だが所謂「アプレ・ゲール」と云う言葉に在るこの少年？に与えてしまふのは

酷かも知れぬが、併し、今日の映画(この)ことが起つたら失張りと云う呼ばれるだろう。この少年は働勤的なその恋愛の結果に對しても、やはり氣分的な判断し保持し得なかつた。その心理には大人の女界に對する恐怖が底流して居るのであるが、この下にトコトンまで進んだ恋愛だつたら、諦め切つた大胆さと勇氣を期待しても良し。口では「口」とも考えらるるが、男と云う者はこういう場合、「ど」が利己的で半信半疑のかも知れない。それと對照的に人妻の態度は立派であつた。進行しつゝある事柄の意味と自己の運命を正しく直感して居る姿は、さすがは女の本能である。その直感した勇氣にも拘らず、万幸交動的な行動しがとれなかりは、この場合、どんなに遊覧な女でも免れなかり難しとも思われ

るだろう。

それだからと云つて「弱者よ、汝の名は女なり」と云ひ切つて済ませるのは事情でなければ、薄き男ではないが、患者がこの映画を觀て「欲情するものであつたらせん人々はやどり觀る口が片養にも良しでしようし、又一方この映画に比例して、こりよりな恋愛の場合、どうしたら良しか戸まどりする外な口と自信せざるような場合は、まだ積極的に恋愛などしな口が尚明であらう。

とまれ、その人妻が己れの年長を嘆きな本らも、諦め切つた落着の中から「どうせ行先は捨てられぬが……」でなかつたら、それはお情けと云うものよ」と云えるヒリッのあたりは印象深い。やはり女を泣かせるようなことは為たくなけりものである。

演出 演技を批評するのは、私の柄でもないので、他の人に譲り先り

◇ 自宅訪問開始 ◇

十一月二十一日の定期編纂會で、會員は各區別にして、元氣な會員が術后三ヶ月未満の退院患者の家を訪問することから、訪問を開始します。

《幹事會》が決まりましたので、来春早々術后三ヶ月未満の會員は、来し及びしてお待ち下さい。

編纂者 ノート

今日は余り原稿が集まらず、本年度の最終号に小さくおわりものになつてしましました。

本會から會員の自宅訪問も開始され、親和会の活動も活発になりまして、マンネリズムに陥つていた新路も、會員さんのおかげで生氣を改良するものと確信しています。

あらゆる面で、謙遜にくり條件が増加した一年間でしたが、来年こそ患者の「養料」向上のために積極的に行うつもりです。

編纂者 堀田 武夫
大村 良子
表紙 宮田 泰一
製版印刷 坂谷 忠雄

薬品と衛生材料

誠 実 と 勉 強

卸 値 下 提 供

輸 入 と 国 産

田

中野区昭和通 2-32番

アサヒ薬品店

電話 中野(38) 4733. 5233

☆電話でお問合せ下さい

☆サービスに感謝いたします